

氏名	安部 真
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 5880 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Clinicopathological Features and Outcomes of Endoscopic Submucosal Dissection for Superficial Cancer of the Pharynx (咽頭表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術における臨床病理学的特徴と治療成績)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 柳井広之 准教授 白川靖博

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

咽頭表在癌に対して低侵襲治療である経口的切除術が施行されているが、その安全性、有効性に関する報告は少なく、臨床データの集積が不十分である。そこで、当院における咽頭表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の治療成績および臨床病理学的特徴を後方視的に解析検討した。

対象は2006年9月から2017年2月の間に、咽頭ESDを施行された59症例70病変。病変の一括切除率は94.2%で、治療関連合併症は6症例で誤嚥性肺炎を認めた。病理組織学的には27病変で断端判定困難と診断された。全例が追加治療を施行されなかったが、局所再発は認めなかった。経過観察中に7症例で頸部リンパ節転移を生じたが、いずれも頸部リンパ節廓清が施行され、その後再発を認めていない。3年全生存率は91.5%(95%CI: 76.6-97.3%)で、疾患特異的生存率は97.6%(95%CI: 84.9-99.7%)であった。当院における咽頭ESDは他施設の報告同様に安全で有効であると考えられた。また、「resect and watch」の治療方針が有効であると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は咽頭表在癌に対する経口的切除術(ESD)について検討したものである。2006年9月から2017年2月にESDが施行された59症例70病変を解析した。病変の一括切除率は94.2%で、合併症は6症例誤嚥性肺炎があった。病理学的に27病変で断端判定困難であったが追加切除は施行されなかった。局所再発はなかった。経過観察中に7例でリンパ節転移を生じたがリンパ節廓清がされ再発は認めない。3年全生存率は91.5%で、疾患特異的生存率は97.6%であり、有用な成績と考えられた。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、咽頭表在癌治療に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。